



- 2. 総会・保育所長研修会
- 3. 第59回静岡県保育研究大会
- 4. 各分科会報告(1～8分科会)
- 12. 県保育研究大会に参加して
- 14. 新規採用予定職員研修会
- 16. 保育士養成施設(校)との意見交換会

- 18. 各研修報告
- 19. 専門委員会報告
- 20. 海外交流研修
- 22. キャリアアップ研修
- 23. 支部だより

📷 写真提供：沼津市 いずみ保育園

平成30年度

静岡県保育連合会総会 並びに 保育所長研修会 開催

期日 平成三十年四月二十六日
会場 静岡市民文化会館

平成三十年度静岡県保育連合会総会は、静岡県健康福祉部こども未来局長の関典子様、静岡県社会福祉協議会常務理事の松浦康夫様等、多くの来賓の皆様をお迎えして、静岡市民文化会館において開催されました。

最初に後藤弘明会長より「平成三十年度の予算が示され、子ども子育て支援関連の予算は、量の拡大と質の向上が大きな目玉となっています。その一方、国では子どもの数の減少は、保育施設の数を拡大しても限界点にきていると認識しているようですが、設置基準に捕らわれない多様な保育所の認可や、人材確保のために資格を持たない保育補助者の雇上げなどを積極的に行っていきます。しかし、今現場で必要なのは、保育補助者ではなく資格のある保育士ではないでしょうか。



他県での保育所職員による不祥事が報告され、今まで以上に保育の質の向上が求められております。県保連では、保育士会や支部と

協働して本年度キャリアアップ研修会の実施を計画しています。保育所で過ごす子どもや、そこで働く職員すべてが幸せになっていけるように活動してまいります。」と力強く挨拶されました。その後、関局長、松浦常務理事からもお祝いのお言葉をいただきました。

次に総会に移り、議長に浜松市湖東白ゆり保育園高柳益江園長、副議長に静岡市立富士見台こども園天野里衣園長を選出し、議事に入りました。議案として第一号議案 平成二十九年度事業報告 並びに収入・支出決算について、第二号議案 平成三十年度事業計画(案)並びに収入・支出予算(案)についての議案が審議され承認されました。その後、新規加盟園が紹介されました。



総会終了後、引き続き保育所長研修会が開催されました。講師には慶應義塾大学総合政策学部准教授の中室牧子先生をお招きして「教育に科学的根拠(エビデンス)を×思いやりの大切さ」教育経済学から見るゆたかな

心の作り方」というテーマで一時間半にわたるご講演いただきました。

一生懸命に勉強するしくみを作る方法や、モチベーションを引き出す方法が経済学とどのように結びついているのか。また、注目されている非認知能力とは何かを教授いただきました。中でも、自制心とやり抜く力が必要で、その力があることにより将来の成功に繋がっている場合が多い。その力をどのようにして鍛え伸ばしてあげることが出来るかを、詳しく説明していただきました。

また、いま一番投資しなければいけないのは就学前教育であり、その間に必要な教育を行うことにより将来の収益率が非常に高くなるという結果が出ている。巨額の財政赤字を持つ日本がどのようにして健全化していくか、次世代に負担を回さないようにしていくことが出来るのか。これからの保育に重要なものは何かを再認識させていただいた講演でした。



持つ日本がどのようにして健全化していくか、次世代に負担を回さないようにしていくことが出来るのか。これからの保育に重要なものは何かを再認識させていただいた講演でした。

第五十九回

静岡県保育研究大会

平成三十年五月十日 静岡市

静岡県保育研究大会は、県内東・中・西部の持ち回りで行われており、今年度は静岡市市民文化会館及びシズウェルを会場として開催しました。

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現を目指して」を主題とし、保育所・認定こども園の社会的意義と役割、保育実践などの議論を深め、積極的な意見交換が行われ、参加者同士がお互いに研鑽を深めることが出来ました。



主催 静岡県保育連合会・静岡県保育士会



この研究発表では、保育者が日々の保育の中で、子どもの学びの瞬間に出合いその成長、保育者の関わりから読み取れることを積み上げて研究報告としてまとめたもの。各園、関連施設、地域とのワークによる研究発表では、今保育所・認定こども園に求められていることが浮き彫りになったように見えてきました。これからも、子どもたちにいちばん近い保育者が、こどもたちの『今』に必要なこと大なることを的確にとらえ、研究という形により多くの大人や保育者に伝えていく力をさらに磨いていける場となれば幸いです。

本大会が滞りなく、充実した研修の場となりましたことは、すべての関係者の方々のおかげとここに深く感謝申し上げます。

第一分科会

テーマ 【新たな時代の保育実践

～すべての子どもにむけて～

発表者 ①熱海市 栄光熱海中央保育園

乳児主任保育士

松本佳奈子

②静岡市 矢部保育園

保育士 野原怜央那

③浜松市 公立保育園西ブロック

研修グループ

浜松市立雄踏保育園

保育士 平沢 陽子

浜松市立可美保育園

保育士 寺田 容子

議長 菊川市 ひかり保育園

園長 八木 智子

助言者 静岡産業大学経営学部

教授 漁田 俊子

記録者 菊川市 ひかり保育園

主任保育士 菅沼さと美

発表(一) 現代っ子に必要な運動発達と支援

～乳児期の個々の発達に応じた

体育実践と成果～

子どもの日常的な遊びの中で、運動能力の低下を感じ、乳児期から幼児期に必要な発達と具体的な取り組みを行う。乳児期においては、個々の育ちを大切に、できる援助を行い、一、二歳ではバランス感覚を養う基礎を

培う中で、幼児期に多様な動きを取り入れた総合的な運動に繋がる事がわかる。三歳以上児の体操教室においては、保護者のアンケートで肯定的な意見が多く、継続していきたい。今後も子どもたちの「今」を大切に、達成感や満足感を味わえる運動遊びを積極的に取り入れていきたい。

発表(二) 新たな時代の保育実践

～すべての子どもにむけて～

～子どものおもいに寄り添って～

多様化する社会の中で子どもの主体性を尊重する事と、今体験し育てなければいけない事とを融合した保育実践が重要とされる。日々の様々な場面での写真を撮り、振り返りをする事で、思いに寄り添い丁寧な関わりの大切さに気付く。「家庭」「地域」をキーワードに挙げたことで、保護者と思いを共有し地域との連携の必要性や日々の感謝の気持ちに繋がる。発達に応じ関わりを広めていく中で、子ども自身が学び、成長し、個々の「生きる力」を育てていくこと、そして子どもに寄り添う感性豊かな保育士でありたい。

発表(三) 不思議でおもしろい

～感性を開く自然あそび～

～自然遊びを通して豊かな感情を育てる～
海と山に囲まれた自然豊かな環境にある中で、日々の生活や保育にうまく活かすことができずにいた。地域で活動する方を招いてのネイチャーゲームや環境学習プログラムに参

加し保育者自身も多くの気付きや不思議、感動を学ぶ中、子ども達も意欲的に遊びを展開する姿が多くなる。自然の中で養われる思考力や豊かな感情、好奇心を大切にすることは幼児期に育てたい十の姿に繋がると考え、園での取り組みを深め家庭にも情報発信をし、親子で楽しめる環境づくりに努める。

助言者より

保育研究による保育の質の向上、保育者の資質向上という視点からテーマを撰んだ事が良い。実践を発表する時は、事前、事後をおさえておく事が大切である。アンケートにおいても同様である。実践記録用紙を統一したことで、複数の園での取り組みがわかりやすく、他園でも参考にできるものがあり良かった。個々の保育計画には一長一短があるため、迷ったときはまず実践すること、実践を踏まえ振り返りを行うことで質の向上に繋がる。



第二分科会

テーマ 【配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて】

発表者 ①沼津市 霊山保育園

保育士 大竹めぐみ

②藤枝市

主任保育士 松尾ふみこ

保育士 青島 由衣

③浜松市

まるづかこども園

主幹保育教諭 守屋 友美

主幹保育教諭 中根 芳浩

議長

御殿場市 双葉保育園

助言者

静岡大学教育学部

記録者

御殿場市

双葉保育園

発表(一)

配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

保育士・保護者・専門機関との

連携の中での保育

家庭では普通に話すが、特定の場では話せない、声が出ないという場面緘(カン)黙児のAちゃんの母が、自ら資料を集めて園に相談に来たことから、保護者、保育士、専門機関との連携が始まる。診察に同行してアドバイスをもらうなど、情報の共有や保育士の研修によりスムーズステップを積み重ねて、よ

りよい保育に繋がった。今回は保護者の理解により連携が出来たが、理解を得られない保護者に対する働きかけが大きな課題である。

発表(二) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

子どもの心と対話する保育

経験不足、他害、衝動的行動などを起こす

児童に対し、園全体の保育士からチームを作り、エピソード収集、ケース検討を行った。

そこから見えてきた「友達と仲良くしたい」

「人に認められたい」といった本児の気持ち

に寄り添うような支援を考えることにより保

育士との関係も良い方向へと変化した。子ど

もが抱えている困り感を見つけ、気持ちと思

いながら保育をすることで、一人ひとりが安

心して園生活を送れるようにしていきたい。

発表(三) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

気になる子どもと保護者への関わりと

就学に向けて

気になる子どもを持つ保護者へアプローチ

をし、専門機関との連携を図るが、保護者は

最終的に診断やアドバイスを認めずに、繋が

りを拒んでしまった。園は現在も専門機関と

繋がりが、全職員で助言を共有・共通認識とす

る事によって成果が現れてきているが、年齢

が上がり、本児が困り感を持つ場面も増えて

いる。就学に向けて、保護者も専門機関と繋

がって本児と向き合い、少しでも良い方向に

進めるようにサポートをしていきたい。

助言者より

保護者支援のアプローチのタイミングは早
いほうが良い。就学後ではショックが大きい。
子どもにトラブルなく生活を楽しんで欲しい
から専門機関からもアドバイスをもらいたい
という気持ちを伝える。専門的な事を取り入
れる事により生活し易くなるという実感を持
つてもらい、保護者の持っている悩みや生き
にくさの支援など、孤立させない仕組み作り
が必要。「成功事例を勇気に、でも成功事例
をなぞらない」という思いが大切である。



第三分科会

テーマ【保育者の資質向上を図る】

発表者 ①三島市 梅の実保育園

副園長 佐藤 悟郎

主任保育士 石川 圭子

②静岡市 ルンビーニ保育園

園長 土方 宏明

③浜松市 たんぽぽ保育園

園長 山崎正太郎

議長 静岡市 月影保育園

園長 浅井 哲朗

助言者 常葉大学保育学部

教授 山本 睦

記録者 静岡市 城北保育園

園長 松田 剛

発表(一) 保育者の資質向上を図る

「言語・環境・音楽・体育プロジェクト」より良い保育を実現するため「プロジェクト」という名の会議を毎月行い、現場での保育内容の見直しを行っている。プロジェクトは四つ（言語・環境・音楽・体育）の分野に分類され、三々四人のメンバーで構成されている。会議では、常に五領域を網羅することを念頭におき保育内容の改善に取り組んでいる。また、職員全員が毎日振り返りチェック表を記入することにより自分自身を見直し、資質の向上を図っている。

発表(二) 保育者の資質向上を図る

「保育者の意識とその変化について」

静岡市私立保育園長会に所属する十一カ園の職員から意識調査を行った。仕事が好きでやりがいを感じる「A」、仕事が好きだがやりがいを感ぜない「B」、仕事は嫌いだがやりがいを感ぜる「C」、仕事は嫌いでありがいを感ぜない「D」の四つに分けて調査した。また、それらをどのような場面で感ぜるかを合わせて調査した。一日の中で「A」の状態であっても、保育が終わった後に「D」になることもある。なぜ「D」になってしまったのかを常に検証することにより、職場内の風通しが良くなり、好きな仕事にやりがいをもって向かうことができ、保育者の資質も向上する。

発表(三) 人事評価制度を使った

保育者の資質向上

「コンピテンシーに基づく行動目標とMBOを使った絶対評価」
Oを使った絶対評価
コンピテンシー（仕事のできる人の行動特性）に基づく行動目標とMBO（成果目標）を使った絶対評価を用いて、人事評価を行っている。評価者と被評価者が面談を行い、自己評価と評価者の評価を擦り合わせて合意を形成しながら進めていくため、制度自体が組織のマネジメントツールとして機能するようになってきている。また、自身のパフォーマンスが明確に給料に連動する仕組みとなっているためやりがいを感ぜて仕事ができる。コンピ

テンシーとMBOの設定により問題解決の行動が習慣化され、保育の質の向上に繋がる。

助言者より

保育指針の改正により非認知能力の重要性が話題になっている。非認知能力とは、効力感・自制心・公共心であり、人・時間・場所の中に自分を位置付けて客観的に考えられるようにする能力。これからはこの能力を伸ばしていくかなければならない。多くの単純作業はAIに取って代わられる時代が来る。就学前教育にもっと力を入れ、保育者は与えられた人・時間・場所をいかに有効に使ってベストな仕事をしていくことが求められる。



第四分科会

テーマ 【地域の子育て家庭への

支援の充実に向けて】

発表者 ①富士宮市立柚野保育園

園長 後藤 優子

②静岡市 るり保育園

保育士 鈴木 雅子

③菊川市 ひがし保育園

園長代理兼主任保育士 浅井 明代

管理栄養士 宮城 まみ

議長 袋井市 ルンビニ第二保育園

園長 乗松久美子

助言者 静岡福祉大学子ども学部

教授 永田恵美子

記録者 袋井市 めいわ可睡保育園

園長 徳永 洋子

発表(一) 地域の子育て家庭への

支援の充実に向けて

～子どもと親が育つメディアとの

関わり方～

核家族化などの家族形態の変化により、メディアに頼った子育てが浮き彫りとなった。子どもがメディアへの過剰な接触のために二十年程前、光過敏性発作が社会問題となった。そこで食事中はテレビを消し親子の会話を推進し、絵本やわらべうた、カルタなどに取り組みチャレンジカードを作成し実施した。親子が共に育ち合うふれあいを大切だと

考えた。保護者、支援センターの利用者へ情報発信を行い、今後も主体性を持って電子メディアを選択し判断する力を身につけていけるよう、取り組みを続けていきたい。

発表(二) 地域の子育て家庭への

支援の充実に向けて

～地域に見守られる環境づくり～

自然環境に恵まれ、地域の人たちが子どもたちと一緒に見守ってくれる良い環境であったが、近年核家族化により高齢者、地域の人たちとの交流が少なくなってきた。そのような中、園を介し親子と地域がより密接な関係を持ち、親子が安心して子育てができる環境にしたいと考えた。安全面を配慮し、六十五歳以上の方とふれあいサロンの交流を深めていった結果、子どもたちから自然と挨拶ができるようになってきた。今後は伝承遊びや地域貢献など子ども、保護者、地域の方との関係がより良いものとなるよう活動していきたい。

発表(三) 保育所利用家庭の子育てから

発信する子育て支援

～コミュニティーセンターへつなげよう

まずは食と生活リズム

人間の基礎づくりの大事な乳幼児期に「一緒に笑顔で子育てを楽しみましょう」を合言葉に手間暇をかけましょうと保護者に伝え続け、コミュニティーセンターを通じて地域の親子にも発信をした。健康なからだづくりは

朝ごはんということで、簡単レシピや親子の時間の共有ということで、親子読書にも取り組み、おすすめ絵本リストも発信した。このことから、大事なことは食であり絵本であり子どもと一緒にいる時間であることを再認識した。

助言者より

地域の子育て家庭の捉え方は様々である。日々の業務に追われる保育士であるが、一連の流れに添って研究することは、振り返り、自己評価をするためには欠くことができない重要なことである。それらの取り組みを園内外において精査し改善していくことが、保育士の専門家としての力量アップに繋がり、子育て家庭への支援の充実が図られ「子どもの最善の利益」の目的達成へ一歩近づくのである。



第五分科会

テーマ【家庭や地域との連携による

食育の推進】

発表者 ①小山町立いきど保育園

主任保育士 勝又 礼子
保育士 渡邊 真希

②川根本町立桜保育園

主任保育士 青島佳代子
川根本町 徳山聖母保育園
保育士 中村ひとみ

③いわた保育士会 食育部会

袋井市立笠原こども園
保育教諭 岩清水彩花
磐田市立二之宮保育園
保育士 菊地 里紗

議長 三島市 三島よつらん保育園

園長 加藤 徳人

助言者 NPO法人こどもの森

理事長 吉田 隆子

記録者 三島市 中郷南保育園

園長 瀬川 尊也

発表(一) 食べるって楽しいな

く 楽しく食べて元気な子

まず「子どもが『食べるって楽しいな』と
思えるような環境は?」「どうしたら『食』
への関心が高まるだろう?」と探る事から始
め、栄養士にもアドバイザーをもらい、地域や

保護者を巻き込む活動・関わり等、具体的な
取り組みを実践してきた。研究を通して子ど
もたちは、自分の手で栽培・収穫・調理など
の実体験をすることで、食材の営みを知り、
以前よりおいしさを感じられるようになった。

発表(二) く心の栄養、身体の栄養

栽培ものを使ったクッキング、柏餅作りや
魚の掴み取り、焼き芋会など季節の行事に合
わせてクッキングを行った。また、試食会を
設け保護者の方にも給食を味わってもらった
り、地元の食育推進協議会と交流したり、地
域を生かした取り組みや、様々な人とふれあ
いの中で「食べる事が楽しみ」という思いを
大切にしてきた。食育活動は、すぐに結果が
出るものばかりではないが、幼児期に味わっ
た物、経験した事は大きく、子ども達が成長
してからも、きつと心の中に残っていくと考
え、今後も食育活動を続けていきたい。

発表(三) くめざせ!おはしめいじん

正しい箸の持ち方が身につくことで、食べ
る意欲や自信に繋がると考え、保護者と連携
して、子どもが興味を持つような遊びを工夫
していきたくと考えた。実践を通して自分の
箸の持ち方が正しくなっていくと、子ども自身
が気付くきっかけとなった。子ども同士で声
を掛けたり、確認し合ったりすることで、正
しく箸を持つことへの意識が高まった。

助言者より

食育は過程が大事です。過程を楽しむ、食
材のプロセスを子どもに感じさせる、地域の
食材を大事にすること、地域の伝統的な郷土
料理を地元の人にも協力してもらい食育に活
かすことなどです。静岡県の食育の特徴は0
才からの食育です。0才の食育とは、離乳食
で、離乳食から食育をしていくことが大切で
す。子どもが楽しく食べるには、大人が笑顔
でいること。食育に大事なことは、継続させ
ること。親との連携、地域との連携なども大
切なこととなります。



第六分科会

テーマ【子どものより良い育ちに向けた関係

機関とのネットワーク】

発表者 ①富士市 みどりこ保育園

園長 落合千衣子

②静岡市立こども園 藁科ブロック

静岡市立服織中央こども園

園長 福井 佳幸

③浜松市 ずだじこども園

保育教諭 武田茉奈美

保育教諭 鈴木侑里香

議長 藤枝市立岡部あさひな保育園

園長 種本はる美

助言者 常葉大学健康プロデュース学部

准教授 中村 俊哉

記録者 焼津市立旭町保育園

園長 小島恵理子

発表(一) く子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

保育園は保護者の子育ての道筋をたてるためのサポートをあらゆる支援者と共にしていく役割を担っている。療育センター、小学校、介護施設等と連携をとると共に保護者もつと気楽に話せる場としての「ママのためのホットサロン」の企画運営協力者となり実施している。保護者が我が子の「その子らしさ」を肯定的に受け入れるためには、保護者自身が自己肯定感を持つことが大切であることが

わかった。今後も保護者が勇気を持てる援助の体制作りをしていきたい。

発表(二) く多様な機関との連携と協働

「静岡市子ども・子育て支援プラン」を新しく策定をしたことを基に、藁科ブロックとして地域と連携した、より良い子育て支援の今後の在り方についてのアンケートを行った。結果から、未来サポーターの役割や、併設されている園との連携、保健センターとの連携について課題をもち改善に努めたことで、各家庭の状況に添ったきめ細やかなアドバイスができるようになった。今後は子どもの育っていく姿をエピソードを交えて利用者に伝え、子育ての楽しさを感じられる機会を増やしていきたい。

発表(三) く子どもを取り巻く環境を理解した

上での保育を目指す

子どもの気になる行動は家庭での背景と関係しているのではないかと捉え、スクールカウンセリングから保育内容を見つめ直し、子どもと、保護者の変化について研究した。保護者の中には相談に一步踏み出せない方もいるために園として、臨床心理士が講演する機会を設け、スクールカウンセリングの考え方を知らせた結果、新たな視点で保育や育児を展開でき、関連機関との連携や絆を深めることで広い視野で子どもと密接に関わることができることがわかった。

助言者より

自治体や小学校にもよるが、就学前の小学校との連絡会で現一年生担任や教頭に情報として知らせても、肝心な特別支援コーディネーターに伝わっていない場合もある。確実に伝達していただけるよう、確認しておく必要がある。小一学級崩壊と言われているので、クラス編成を考える上で具体的な情報は重要である。発表にあった「親が元気でないと子どもにも大きく影響する」は、まさにその通りである。子どものより良い育ちには地域での協力体制が不可欠である。保育園、支援センター、保健センター、民生委員他、家庭に対して何ができて、何ができないのか各分野で役割を明確にした上での連携が重要となる。



第七分科会

テーマ【保育の社会化にむけて】

〜保育の営みを

いかに社会に発信するか〜

発表者

①沼津市 しんあい保育園

園長 山本 重治

②静岡市 つくしんぼ保育園

園長 山下 純子

③掛川市 掛川聖マリア保育園

園長 岡本真理子
主任保育士 内山 裕子

議長

浜松市 くすのき保育園

園長 袴田 祐子

助言者

常葉大学短期大学部

教授 鈴木久美子

記録者

浜松市 くすのき保育園

主任保育士 太田みさえ

発表(一)

子育て支援センターの活動及び

他機関との連携を通して保育の

社会化を考える

地域の子育て家庭のニーズに合った情報の発信、支援が必要な園児に対して関係機関との情報共有等の連携がとれているのか、という点で社会化について考えた。支援センター職員、看護師、栄養士による育児講座の開催は相手のニーズに合った取り組みを提供していくことで子育て家庭とつながることができた。またサマリー(要約記録)を活用した医

療・療育機関との情報共有、情報提供は専門機関と園との相互の役割を確認でき、それらを通して安心して子育てができる地域社会づくりに貢献できていることを感じた。

発表(二) 園だよりで、地域とつながる

開園するにあたり地域の方から子どもたちの声や、交通面での危険についての指摘があった。そこで園の理解を深めてもらえるような取り組みの一つとして、園だよりの地域版を発行。園児の様子だけでなく、各年齢における発達課題についても一緒に載せることで、保育園の子ども、地域の子ども同様な発達を経て成長していくことを伝え、子育てのヒントを一緒に考えられるようにした。少しずつ地域の方に声をかけてもらう機会が増え、保育の活動の様々な働きかけに快く応じて頂けるようになり、地域の中に根付く園として、今後この取り組みを大切にしていく。

発表(三)

掛川市における

学園化構想の取り組み

掛川市は市全体の取り組みとして、平成二十五年より乳幼時期から中学校までの十五年間を見通した視点を持ち、同時に地域の方々の協力を取り込んだ学園化構想をスタート。中学校区の幼・保・小・中の職員で構成される各研究会での情報交換、公開授業・保育への参加、地域の方のボランティアを積極的に取り入れた活動計画を設定することで、長期間のスパンで子どもたちの成長を

共に考えていく。小学校へのスムーズな接続、地域との連携等それぞれが互いの理解を深め合い、子どもはみんな育てていくという意識がさらに深まっている。

助言者より

本分科会のテーマに対して、現場の自覚と実践が進化していることを感じさせられた三報告であった。発表(一)は社会資源としての保育所の在り方が具体的に示され、発表(二)は園だよりの役割の再認識、発表(三)は地域ぐるみで子どもを育てるといふ先進的な取り組みの実践報告であった。この三報告から、保育所を核とした「協働(コラボレーション)」の実態と更なる可能性が見い出され、併せて保育者個人が人と出会い、関わり、繋がるなかで、それぞれの人を活かすことよって発信力を高めていくのだということが明らかとなった。



第八分科会

テーマ 【公立保育所・公立認定こども園

等の使命と地域社会での役割】

発表者

①長泉町立中央保育園

園長 廣田 利恵

②島田市立第一保育園

園長 田中 初江

島田市立第三保育園

園長 俣平 千鶴

③浜松市立中ノ町保育園

園長 鈴木 京子

浜松市立南保育園

園長 犬塚 弘美

議長

沼津市立西浦保育所

所長 吉田 里美

助言者

東海大学短期大学部

教授 徳浪 芳江

記録者

沼津市立金岡保育所

副所長 杉山 真里

発表(一) 今後の公立保育園の役割と実践を考える

「子どもが輝き 子育てが楽しい 心ふれあうまちをめざして」を土台に、様々な取り組みをしてきた。行事や体験活動を通じて自分の気持ちを表現し、褒められ認められ、個々の自己肯定感を高めた。また、保護者の抱えている悩みや不安に対する相談や援助を行ない、普段の関りを丁寧にするところから、家族

とのつながりも広げ信頼関係を築くことができた。

今後も公立の役割として行政とのネットワークをつなげ地域と関わることで、みんな子育てをする意識を高め、みんなの笑顔のために当たり前のことにしっかり向き合っていきたい。

発表(二) こどもをまんなか

〜今、私たちにできること〜

合併・民営化を経てどういう子どもに育てたいかについて考えあうようになり、公立保育所として今何をすべきかを職員間で見直すこととなった。他機関や民生委員との関り、保育リーダー会や園内研修をする中で、連携ができ、支援の方法に広がりができ、子育て中の親へのアンケートでは、保護者の不安や市への要望などがわかり、今必要な支援が具体化した。

今後は保育の見える化を課題とし、子どもをまんなかにおいた保育をすすめていきたい。

発表(三) 公立保育園が連携・協力をとって子育て支援を展開していくために

浜松市の核家族や少子化が進む中、公立保育園が地域社会での役割として行った取り組みについて発表された。

地域に根ざすところでは、民生委員や児童委員と一緒に活動を行ない、地域とのふれあいを通して連携やつながりを築いた。また、保幼小の接続では、幼稚園との交流や学校探

検、連携協議会での情報交換を通して結びつきを強めている。

今後も園内研修、出前講座、公開保育、交流意見交換会や四部会などでスキルアップをはかり、保育士の質を高めていきたい。

助言者より

公立保育所として生き残るには、多様なニーズに対応し、ネットワークの要になっていかなければならない。

公立保育所の価値を高めるために一人ひとり自覚を持って仕事に就き保育の質を高め、プライドを持って働くことが大切。子どもの成長を考えることに100%力を注いでいてほしい。



県保育研究大会に参加して

第一分科会

「新たな時代の保育実践」すべての子どもに向けて」をテーマとして発表が行われました。運動遊び、子どもの思いにより添って、自然遊びを通して、と様々な視点から具体的に分かりやすく丁寧に発表されました。

私が興味深かった研究は、季節ごとの自然遊びの実践と記録、そして地域の資源を活用（環境学習プログラム）したもので実際に自園でもすぐに取り入れることが出来、身近に感じました。

また、助言者の漁田先生の何のための研究なのか？という言葉が心に残りました。最終的には、情報を共有することで、保育と保育者の質の向上に繋がっていくことが大切である事、そして保育実践を通して事前と事後を比べ次の行動をおこし、きめ細やかな保育を目指していきたいと思えます。

葵ヶ丘保育園 宮崎 容子

第二分科会

三園の発表を聞き、他園のさまざまな取り組み、子どもや保護者への対応の仕方を知ることができました。特に一人の子どもの事を、担任だけでなく園全体でエピソードを考えた

り対応の仕方を考えることは、子どもたちがより良い園生活を送れるようにするためにはとても良いことだと思います。日々の保育の中で、できそうな活動から実践していきたいと思えました。また、場面緘黙の具体的なエピソードや保育士の関わり、専門機関との連携はとても参考になりました。一日を通してもっといろいろな方面にも目を向けて知識を学び、子どもたちがより楽しい園生活を送れるよう努めていきたいと思いました。

三島ようらん保育園 瀬川 真希

第三分科会

人事考課制度を使い、施設で働いている職員一人一人が自分の目標をたてて仕事をしている話、ツールを使ってアンケートを行い、普段どんな気持ち・意識を持って保育をしているかを把握し、できる事は園内で検討していくたという取り組み、保育士がより良い保育を行う為にという事で、園全体で五領域を意識し、4つの分野に分かれてプロジェクト会議を月1回行っていたり、1日の終わりにチェックリストを行っているという話を伺いました。毎日のチェックは大変かと思いましたが、職員の負担にならないよう色々方法を変えながら園全体で全職員の現実問題を出し

合い、職場の改善一人一人のやる気につながっていくという所でのいろいろ参考になりました。

富士わかば保育園 望月由佳里

第四分科会

様々な環境で育つ子どもたちが、安心して自分を表現し、自己肯定感を高める為にも、地域に根ざした開かれた園づくりがとても重要なのだと改めて感じた。

子育て支援の充実と共に、地域一体となつて取り組み、親子が地域に見守られながら安心して子育てできるように、多様な職種・関係機関と連携し、社会資源を有効に利用しながら、子育て支援を地域に発信していくことが大切なのだ実感しました。

又、助言者の永田先生のお話の中で、先生達の関わり、言葉がけが、あと押しをするとありました。私達保育教諭のなにげない言葉や関わりが、保護者のモデルになり、園の職員一人ひとりがプロであることを意識し専門性をより高めていきたいと思う。

みどりが丘こども園 金崎 明子

第五分科会

「家庭や地域との連携による食育の推進」をテーマとした三つの園の取り組みを聞き、楽しく食事をするということは、保育園だけ

では出来ない事だと改めて感じました。食育を通して身近な人との関わりを持つことで、更なる食への意識、関心が子どもたちの中で育っていくと実感しました。

また、地域との連携もそれぞれの地域の特性を生かして取り組む工夫をしていくのが大切だと学びました。特に家庭との連携は、保育園が一方的に発信していくのではなく、保護者にアンケートを依頼して、家庭の悩みを共有したり、園での人気メニュー等を表記したりと、親子で食に関して会話をする機会を増やしていくことで、興味をもつきっかけになると学びました。

食育活動は、すぐに結果がでるものばかりではありませんが、給食室だけの活動にとどまらず、保育室はもちろん、家庭や地域の特性も視野にいれ、よりよい食育活動を行えるよう努力していきたいと思いました。

豊田みなみ保育園 近藤 澄枝

第六分科会

「子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク」をテーマとした各園の実践発表を通して、保護者の困り感やストレスを解消する場となるおしゃべりサロン等の交流の場の大切さや関係機関との連携の必要性を改めて感じました。

支援が必要なお子さんに対しては、何よりも保護者自身がわが子をより深く理解するこ

とが必要で。そうした保護者への対応や支援は、保育教諭や看護師の支援だけでなく、専門家の力が不可欠です。園内だけで抱えず、専門機関との密な関係づくりをしている園が、子どもも保護者も保育教諭も共にによりよく育ち合っていると感じました。

しかし、その育ちが必ずしもうまく小学校へ繋ぐていくとは限らないという各園や助言者の先生の話も伺いました。幼児教育保育課、社会福祉課、教育委員会、医療、療育機関、相談機関等の関係機関が、より密接にネットワークを繋げ広げることが、こどもたちのより良い育ちに繋がっていくことを痛感する分科会となりました。

ハローこども園 宮野恵理子

第七分科会

保育の営みをいかに社会に発信するか、発表者がそれぞれに、我が町、我が園の個性に真摯に向き合い、日々の営みを大切にされている様子を学ばせていただきました。

発表された保育者の皆さんの熱い思いを感じ、「私たちも」と勇気をもらい、出来ることから取り組み、行動していきたいと思えます。これからの保育園は開かれた場となり、専門機関とも連携を取りながら、公私立の壁を越えて交流ができ地域で繋がることができたらどんなに素敵なことでしょう。

未来を担うべき子ども達を地域と共に支え

応援していけるように、社会と広く繋がる努力を大切にしていける、その中で保育園の現状も知って頂き、様々な分野からの協力を得られたらと思います。

みどりご保育園 小出 えみ

第八分科会

『公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割』を研究テーマとした三園の取り組みの発表を聞かせて頂き、各園の活動や連携、取り組みなど、とても参考になりました。

その中でも、園だけでなく関係施設や行政との連携や地域とのつながりの大切さも強く感じられました。

地域とのつながりでは、自園は地域便りを配布したりお散歩時など出会った方々と挨拶を交わしたりとかかわりは持っています。が、保育の中で子どもの一言から始まった八百屋さんを訪ねてのつながりは、素晴らしいと思います。保育の中や生活の中で地域と家庭が繋がっていきけることで、無理なく楽しく連携がとれていくのではないかと感じられました。

また、一歳六か月検診時に保育教諭が参加させてもらうなどの関係機関との連携も入園後の子どものかかわりの中で活かせていけるのではないかと思います。

長泉町立北こども園 土屋 智美

新規採用予定職員研修会

東部支部

月日 平成三十年二月二十二～二十三日

会場 三島市 箱根の里少年自然の家

参加者 六十五名

東部支部では、三島市箱根の里少年自然の家で一泊二日の日程で行いました。

開会式終了後すぐに野外活動のポイントラリーを行い、昼食は飯盒炊飯でカレーを作りました。野外活動、飯盒炊飯という協同活動で、班の仲間とのコミュニケーションも深まり、活動にまとまりができました。

一日目の午後の講義は「社会人として一番大切なこと」と題してアップハート代表勝又ひで子先生より接遇とマナーの基本を教えてくださいました。また、夕食後に行われた交流会「室内オリオンピック」では、実行委員によるアトラクションのあと、研修生は生き生きとした表情で競技に取り組み、更に団結を深めました。

二日目の講義は「保育園にとって一番大切なこと」を県保育連合会 土山雅之副会長、「あなたにとって一番大切なこと」を県保育士会 吉川慶子会長より、それぞれ保育園、保育士の使命と役割、施設職員としての基礎知識を教えてくださいました。

そして「保育のリスクマネジメントと保

護者とのコミュニケーション」と題し、

東京きぼう法律事務所 町東子弁護士

より、保育施設における重大事故防止について、事例や映像を用いて詳しく教えていただきました。

最後に「現場からのアドバイス」（保育の楽しさを知ろう）と題して、ワークショップを行いました。グループでの活発な討議や実行委員の先生方のアドバイスに、研修生は真剣に耳を傾けていました。

これからもこの仕事を選んだ志を忘れることなく、ひたむきに研鑽に励み、これから出会う子ども達と向き合ってほしいと思います。研修生の今後の活躍を期待しております。

実行委員長 みくに保育園 加藤聖司



中部支部

月日 平成三十年二月二十日～二十一日

会場 静岡県立焼津青少年の家

参加者 八十四名

焼津駅前集合から研修が始まります。バス二台に分乗して青少年の家を目指します。

例年朝一番に集まった研修生がこの二日間の研修の初心表明をすると伝えられます。

初めに所員さんの挨拶、オリエンテーションがあり、班長や生活係など役割を決めて班別行動をします。

講義一は、県保育連合会中部支部長の私、海野が「保育所の使命と役割」というテーマで保育所の法的な位置づけ、社会的な使命についてお話ししました。

講義二では中野恵子静岡県保育士会副会長より「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、子どもの権利条約などについてパワーポイントを使って分かり易く講演いただきました。

午後には、以前この研修に参加し、現在たちばな保育園で保育士として働いている井原寛人さんより、実際に保育にかかわっての体験談を聞かせて頂きました。

その後は明星保育園の櫻井英世先生の手遊び・歌遊びの実技指導がありました。乳児から幼児までそれぞれの年齢にあったものが紹介されました。午後は、屋外活動でチャレンジラリーを行いました。各班別に十個のチャレンジにかかった時間を競い合い、ここにき

て急に班のみんなとの一体感が高まりました。

夕食後は、各宿泊室で実行委員が研修生の不安や悩みを聞いて助言や勇気づけをしてもらい貴重な時間を持つことが出来ました。

園で実習生を受け入れる時の振り返りや、言葉がけなど私達も学びの時となりました。

二日目講義三は、おもちゃデザイナ―・保育アドバイザーの相沢康夫氏より、「子どもと絵本」というテーマで絵本の楽しみ方をお話いただきました。

講義四は、土方良子先生による「私が目指す保育者を明確にする」というテーマでした。一人ひとりが積極的に参加していただけるよう土方先生により声掛け、指導を頂き、コミュニケーション力がグンと高まりました。

研修生にとっては時間に厳しい盛りだくさんの研修でした。これから、職場の仲間と子どもたちと、そしてその保護者と良い関係で過ごしていけるスキルをお土産に頂いたのではないのでしょうか。四月から研修生の皆さん



の力が大いに発揮できますように、陰ながら応援しています。終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様のおかげで本研修が無事に終了できましたことをここに感謝申し上げます。実行委員長 一番町保育園 海野美代子

西部支部

月日 平成三十年二月十四日～十六日
会場 静岡県立三ヶ日青年の家
参加者 百十八名

西部支部では例年通り二泊三日で研修を行い、百十八名の研修生が参加しました。今回は講義内容を見直し、リトミックをわらべうたの講義へと変えました。

一日目、県保育士会岡本副会長から「保育者としての自覚と責務」の講義を受けました。午後は二時間から三時間かけて班ごとに歩くオリエンテーリングを実施し、チームで助け合ったり、励まし合ったりする大切さを実感しながら親睦を深めることができました。夜には「子どもと絵本をひらくとき」をテーマに絵本についての講義を受け、今までに見ていた絵本であっても、作者の工夫や思いに改めて触れ、その面白さを再発見できました。

二日目、県保育連合会岡田副会長の講義。「保育所・認定こども園の使命と役割」について学びました。「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」最近のネット・ケータイ・スマホ」では、安易なSNSの利用が思わぬトラブルを招き、大きな問

題になる可能性があることがわかりました。午後から「わらべうたを通して育つもの」と「子どもとあそぼう」の二つの講義を受けました。わらべうたは昔ながらのあそびではありますが、子どもたちの情緒の安定や信頼関係を築くことにつながることを学びました。夜の「現場からのアドバイス」では、四月からの勤務を想定し、先輩方に率直な疑問をぶつけ、決意を新たにしました。

三日目、最後に「社会人として一番大切なこと」人間関係と服務接遇」の講義を受けました。三日目ともなると学生気分が抜け、真剣な表情で講義に向かっていました。

三日間という長丁場の研修でしたが、講師や実行委員の先生方の協力のおかげで無事に終了することができました。今回の研修を通して学んだことをいかしながら、まずは保育を一杯楽しみ、素敵な保育士・保育教諭へと成長して欲しいと思います。

実行委員長 ひくまこども園 山田佳敬



「保育士養成施設(校)と静岡県保育連合会」の意見交換会

平成三十年七月六日に静岡県総合福祉会館において、県保育連合会の正副会長及び研修委員と保育士養成校との意見交換会を行いました。意見交換は、東部・西部の二班に分かれて行い、主な意見は次のとおりです。

(養成校参加者からの発言) 西部焼津市以西

- ・ 学生は実習中の視点として、職員の間関係を見ている。
 - ・ 助言を細かく伝えていただけると嬉しい。
 - ・ 実習先では子どもと人間関係をつくるのが上手と言われる反面、記録が書けない為、今の三年生には記録を書けるように指導している。
 - ・ やる気のある学生でも、在学中に他の職種へ変更する学生もいる。
 - ・ 実習経験でやる気になる学生、他の職種へ変更する学生というが、いずれにしても温かいご指導をありがとうございます。
 - ・ 記録を書くことと保育者としての専門性を高めることをダイレクトにつながるような記録の形式にどんなものがあるか考えている。
 - ・ ルーブリック
- 記録に関して視点を定めていないと、字が丁寧に書いてあるとか、沢山書いてあるというところだけになってしまい、実はそれと保育者の専門性とはつながっていない。何を書けば記録が保育者のたまごとしての記

録として評価されるのか。

- ・ 二種類の学生がいる

① 文章、書きたいことはあるけど、うまく書けない文章力

② 何を見ていいのかわからない。視点の問題(重要)

- ・ 養成校と現場が協力をして、実習生だけではなく職員が育つ問題でもある。何を見てどうの見方となるのか。こういう視点で見たい。いいかをルーブリックで共有していききたい。いいのかわきりも含めて、共有して育てていければいいなと考えている
- ・ ドキュメンテーション 実習記録のあり方 気になった子どもの姿を写真に撮って、子どもの見方を深めていく。
- ・ 記録の質、保育をする上で実践を高めるあるいは人が育つうえで必要な記録を明らかにできればいいなと考えている。
- ・ 人が育つ関係性。
- ・ 肯定的な園に行くと、子ども、親、職員が育つ、実習生も希望が持てる、かつ専門性を学べる。養成校と現場とで協力して人が育つ環境を明らかにしていきたい。
- ・ 学生は夢と希望を持って実習にでかける。実習期間が短く感じる学生と、そうでない学生がいる。進路変更する学生の二因として、助言が一言、二言で分かりにくい。
- ・ 学生も言葉足らずで、自分の思いを伝えら

れない。双方がうまくかみ合わない中で実習期間が過ぎてしまう。

自分を否定的にマイナスに捉える学生の姿がある。ストレスの弱さ

実習記録のありかた、数十年前から変わらないので改善していききたい。また、記録と実習教育の効果について

新聞を読まない学生も増えてきている、新聞をとらない家庭もあるので情報の読み書き、子どもたちに対する接点が薄れてきている。文章を作り上げる力がなくなっている。

実習先のアドバイスを怒られたと捉えてしまいうこともありますが、現場の先生に認めてもらえることは自信につながる。

学生メンタルが弱い。一言うと十感じてしまう。

園長と実習指導の職員とのずれを感じる

浜松、静岡地区は、一つの園を受けたら他の園(良い条件のところ)へ行くことはダメなことですか?(沖繩出身の先生)

採用試験を受けるときによく選んでから受



けるように指導している。
 ・公立の三次試験が十一月になるため、私立の採用を前期、後期と分け又、採用人数の見通しがあると、公立が不合格となった場合に受け皿となる。
 ・大規模法人は公立の併願が可能となっている。



(保育連合会参加者の発言)

・就職すると他の施設を見られないから、自
 主実習をして本当に行きたいところへ行つ
 てほしい。
 ・愛知県は求人票の公開時期が一斉に八月に
 スタートする。早く内定が決まると勉強に
 身が入らない。
 ・自ら求めてここで働きたいですという学生
 に来てほしい。
 ・実習生に何を学ばせたいのか。
 ・紹介所に登録をしないよう学生にお願いし
 たい。
 ・紹介所のサイトに学生がその気がなく無料
 登録している。
 ・宿舍借り上げ事業が学生に浸透していな
 い。

○おわりに

・実習の部分、採用の部分で突っ込んだ話が
 できた。いただいた意見を形にしていきた
 い。働き方をよくすることは、必ず子ども
 たちの育ちにつながる。気持ちよく働くこ
 とが、子どもたちに良い影響を与えること
 ができる。

○就職活動について

・就職先が多様化している。
 ・養護施設を選択する学生もいる。
 ・放課後児童デイを選択する学生も多い。
 ・県内だけでなく、東京・横浜・名古屋等に
 出ていく学生もいる。
 ・社会福祉法人・学校法人だけでなく、企業・
 小規模事業所・家庭的保育等選択肢が広が
 っている。

・県外の大学であるが(小田原)、三分の二は
 静岡に就職したいと思っている。
 ・他県から進学してきた学生も、気候の良い
 静岡での就職を考えている学生も多い。
 ・公立からの就職募集は、市町の担当課が来
 校する。

・スマホなどの求人等にも、簡単に飛びつか
 ないよう指導はしているが、素敵なうたい
 文句で思わずクリックしたくなるような文
 面である。

・静岡県内より、東京都内の求人票の方が、
 初任給で、二〜三万円違う。学生は、やは
 り最初に初任給を選択肢のポイントに見て
 いるようだ。
 ・実習園や卒園した園を就職園として考える

学生もいるが、実習園で人間関係に不安を
 感じ選択肢から外す学生もいる。

○保育実習について

・園内での窓口を一人にしてくれればとありが
 たい。
 ・子どもが可愛い・保育は素晴らしいという
 気持ちを膨らませてほしい。
 ・実習ノートをその日の内に学生に返してい
 ただけると、次の日の実習に活かせるが、
 二〜三日後だと、タイムラグができる。
 ・園のバラツキは、園の個性であるとみてい
 る。

(保育連合会参加者の発言)

・学生は、園内の人間関係に敏感である。
 ・実習指導用ガイドラインがあると、ありが
 たい。園のバラつき・担当保育士によるバ
 ラつきもあり、考えていただきたい。
 ・実習生の育て方は、どこも学んでないの
 で、是非ガイ
 ドラインを作
 っていただけ
 たい。

・保育現場と養
 成校が共同す
 るシステム作
 り等考えてい
 ただきたい。
 ・公立志向の学
 生も多いが、
 社福の魅力を
 発信していき
 たい。



各研修報告

施設長研修

期日 平成三十年一月二十四日
会場 清水テルサ

講義①では「新たな保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領への対応について」と題し、大阪総合保育大学教授の大方美香先生にご講演頂き、改定内容への理解を深めることができました。

パネルディスカッションでは「新たな保育指針・教育要領導入への取組みについて」のテーマのもと、大方先生を助言者、野中保育園の中村章啓先生をコーディネーターとし、保育園・認定こども園・幼稚園各々の立場からの取組を発表して頂きました。静岡豊田幼稚園の宮下友美恵先生からは、造形展での事例を通し教育実践を支えるサイクルや教材研究の重要性などをお話し頂きました。白道保育園の土山雅之先生からは、未満児保育が教育と関連付けられたことの重要性や、保育者自身が今子どもに何が育っているのかを認識することの大切さをお話し頂きました。いずみこども園の林幸洋先生からは、遊びが学びになるよう活動し、なるべく毎日同じような生活の流れで過ごしていることや、園内でのグループワークを通し三つの視点や十の姿への理解を深めていることをお話し頂きました。

講義②では公益財団法人日本生産性本部の須江豊彦氏より離職率と退職理由の分析についてご講演頂き、人材難への対応を考えるうえで大変参考になりました。

新規採用職員研修会

期日 平成三十年五月三十日～三十一日
会場 静岡音楽館A O I

平成三十年度の新規採用職員研修会は百十五名の参加で開催されました。この研修会は今年度より二日間での開催となり、より一層中身の濃い研修会となりました。

一日目午前中は県保連会長、後藤弘明氏による「保育所・こども園等の使命と役割」、保育士会会長、吉川慶子氏による「保育者の使命と役割」で保育業界の情勢や保育士としての基礎的な部分を学びました。午後は日本社会事業大学地域貢献センター教授小沼肇氏による「新人保育者の責任とプライド」で保育士の持つ責任の大きさ、重大さを学びました。最後の講義はこどもとも社代表取締役の安田友昭氏による「子どもと絵本を開くとき」で実際の保育の中で子どもたちと絵本を通して触れ合う喜びを学びました。二日目はNPO法人代表の長澤弘子氏による「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」で現代の情報拡散の怖さや正しい使い方について学びました。そして最後の講義はコーチングネットワーク静岡代表の土方良子氏によるグループ討議「保育者としてのあり方（服務接遇）」でした。講義も二日目とあつて随所で有意義な話し合いが行われていました。参加者はこれらの講義をこれからの保育に生かして頂きたいと思えます。

青年部総会・シンポジウム

期日 平成三十年六月八日
会場 静岡県総合社会福祉会館

今年度の青年部では「園を豊かにするマネジメント」と題しシンポジウムが行われ、東部・中部・西部よりパネリストを迎え、様々な立場や視点から園をより良くするための取組事例を発表して頂きました。また特別ゲストとして横浜市の鳩の森愛の詩瀬谷保育園の瀬沼幹太先生をお招きし、お話を頂きました。

西部の袋井ハロー保育園の鈴木康先生からは、保育現場のやる気と底力を引き出すために業務効率化や脱トップダウンによる職員のモチベーションアップを行い、パフォーマンスを上げる取組を発表して頂きました。中部の神谷城保育園の小関健太郎先生からは、園児が摘んだお茶をてんぷらにする等の豊かな食育活動を地域の方と共同で行うなど、地域との縁を大切にしたい取組を発表して頂きました。東部のこのはな保育園の伊藤悟先生からはISO取得による様々なシステム導入、人材育成や管理、今までやってきた事が今後にも本当に必要なのかという事を改めて見直すことの必要性等をお話し頂きました。最後に瀬沼幹太先生からは「共育て・友育ち」の考え方のもと、園庭整備の事例を通して保育者と保護者が共感し自然体で語り合える関係づくりの大切さをお話し頂きました。選ばれる園として在り続けるためのマネジメントの大切さを、会場で共有できたシンポジウムでした。

研修委員会

委員長 ひくまこども園 山田佳敬

本年度上期に開催の所長研修会と新規採用職員研修会も盛会のうちに終了致しました。皆様のご協力に感謝致します。又、ほいく静岡の各研修報告のページをご覧ください。今年度からキャリアアップに対応した研修が本格的に始まりました。処遇改善Ⅱを受けるためには必須の研修ではありますが、研修委員会としてはそこにとられすぎないように、従前の研修会の内容を深めていきたいと思えます。

今年度の民間園長研修会は全国私立保育園連盟の関東ブロック保育研究大会と合同開催となります。分科会のテーマはどれも興味深く、とても充実した内容となっております。一般保育士の方の参加もお待ちしております。下期の研修会は次の通りです。

- 関東ブロック保育研究大会
(熱海後楽園ホテル)
平成三十年十一月十五日～十六日
- 育児相談研修会
平成三十年十一月月中旬から下旬
(会場は各支部の研修会場にて)
- 施設長研修会(清水テルサ)
平成三十一年一月二十四日(木)
- 新規採用予定職員研修会
平成三十一年二月中旬から下旬
(会場は各支部の研修会場にて)

保育士のキャリアアップ委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

平成二十九年度より「静岡県保育士等キャリアアップ研修」の実施について、委員会では静岡県子ども未来局と協議を重ね、今年度より「乳児保育」「幼児教育」「障害児保育」「保健衛生・安全対策」そして「マネジメント」の五分野の研修を静岡県保育連合会各支部と静岡県保育士会の協同で実施することとなりました。

準備期間の短さからガイドラインで示されたすべての分野の研修実施には至りませんが、処遇改善対象の方が受講しやすい環境の確保や本来の目的である保育の質のさらなる向上のための研修内容の充実を担保できるよう研修実施にかかわる役員は、従来の自主事業も担いながら「キャリアアップ研修」の運営にあたっています。

まだまだ課題もありますが、来年度の研修実施の検討も始まります。会員の皆様からのご意見等も汲み上げながら県と調整を図って進めていきたいと思えます。



少子化等問題対策委員会

委員長 一番町保育園 海野美代子

保育所・認定こども園利用者以外に、子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費(一事業五万円)を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。これは複数の施設や団体で行う事業であれば民間園や公立園の区別なく、また、保護者会等の団体でも助成対象としてあります。各支部三事業(十五万円)の予算を組んでおりますので、この助成金を活用したい団体は、各支部事務局にご連絡ください。

また、啓発品として「あいあいホットマークバッチ」の用意が出来ました。保護者への保育園案内などに利用していただいているファイルについても準備中です。ご協力よろしくお願ひします。



海外交流研修

ニュージーランド 平成三十年六月三日〜七日

五和保育園 山口 学世

大宮勇雄先生の「学びの物語」に感銘を受け、一度ティ・ファリキに基づく保育現場を見てみたいと思っていた私にとって、今回のニュージーランドの視察研修は本当にありがたいものでした。それに先立ち、日本保育学会で「学びの物語ーニュージーランドの実践が提起していることー」と題してのマーガレット・カー先生のお話も聴け、期待感いっぱいの旅立ちでした。

六月四日、アオテアロ（白くたなびく雲）・ニュージーランドは、灰色の雲に覆われていました。雨もありましたが、ほとんど傘もささずに視察を終えることができました。



ニュージーランドでは、未就園児を預ける場所が様々なようですが、その中でマオリの文化を大切に行っている HANGA TONGA OPEN OTTEK

OHANGAREOとオークランド市内の VISIT LEARNING CURVES CHILD CARE CENTRE と BEACH HAVEN PRIMARY の二施設を見学しました。三施設とも園児四十人前後の家庭的な施設で、豊かな環境のもと、子どもたちが伸び伸びと自由に遊びを選択している姿を見させていただきました。

各施設、必ずあるのはポートフォリオ（学びの物語）。この園では、左側に、子どもの



姿を、右側に保育士としての学びの物語を記載しているようでした。「これを、どう活かすのですか」の私の問いに『気づく・認める・応答する・記録する・読み返す・振り返るを繰り返し、次の学びをアップさせます』とマーガレット・カー先生が講演で話した内容を、スラスラと一保育士が答えたのです。小学校入学時には、自分のポートフォリオを自分で選び、自分はこんな学びの物語を歩んできたことを話していくそうです。また、保護者も、自分の子どもの家庭での学びの姿を書き、ポートフォリオを足していくそうです。



就学前施設・小学校・家庭と、大人の子どもへの眼差しが、ポートフォリオというものを通して、繋がっている事が素晴らしいと思いました。

保護者用に、ニュージーランド教育省から三つ折りのパンフレットが発行されており、園の入り口に置いてありました。そこには「すべての幼児教育は、幼児が自信をもって、能力のある学習者になる為」にあると始まり、ティ・ファリキの四つの基本原則と五つの学びの成果等について、ちゃんと説明され、同じ内容が掲示がされている事にも驚きました。

また、誕生日で随時入園。小学校入学も誕生日で入学していく。また、週二十時間、一日六時間までが、国の無償時間等、育児と女性の労働の両方を守るお国柄を感じました。一番心に残っているのは、「あなたにとつてティ・ファリキとは何ですか」の質問に『常に頭の中に入れておくものです』『ティ・ファリキには、年齢に応じたかみ砕いたカリキュラムのようなものはないのですか』に対して『オー！オールドオールドタイム。その考え方に、私たちは膨大な無駄な時間を過ごしてきました』『この考え方を浸透させるために、保育士が協力しました。まず、親に語り



かけ、子どもの見方を変えていったのです』と力強く答える保育士に、ティ・ファリキに対する信頼と自信を感じました。

新指針が公示され、みんなで新たな時代を生きる子ども達の保育がスタートしている日本です。二十年后に、同じようなことを、自分を含め私たち日本の保育士みんなが言えるのか、分厚い保育指針解説書を見ながら考えてしまいました。

最後になりましたが、企画して下さいった海外交流委員の先生方や楽しく同行して下さいった県内の保育士さん達に心から感謝申し上げます。



平成
30年度

静岡県保育士等キャリアアップ研修



静岡県の保育士等キャリアアップ研修が始まり、静岡県では、県から静岡県保育連合会への委託により実施することとなりました。この事業については、保育士の質の向上は重要課題であり、当連合会としても自ら積極的に取り組む必要があるとの思いから委託を受けたものであり、静岡県保育士会と協働して進めているところです。

まず、乳児保育分野のキャリアアップ研修が六月十五日にアクトシティ浜松コンGRESセンターで二百四十五名が参加し開催されました。初めのキャリアアップ研修ということ

もあり、受付の際はどの参加者も緊張した様子がみられましたが、大きな混乱もなく、開始することができました。

講師は、静岡産業大学経営学部教授 漁田俊子先生が担当されました。乳児保育について、脳の機能等について、具体的な事例を交えての講義があり、どの参加者も真剣に受講していました。午前の講義が終わる頃には、朝の緊張もほぐれた様子で、昼食の際には笑顔も多くみられました。

また、六月二十五日には保健衛生・安全対策分野のキャリアアップ研修がアクトシティ



浜松コンGRESセンターで二百九十五名が参加し、開催されました。

講師は、午前が国立感染症研究所感染症疫学センター第三室長 多屋馨子先生で、保育所における感染症対策ガイドラインを担当されました。午後は大阪母子医療センター 消化器・内分泌科主任部長 恵谷ゆり先生で、保育の現場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドラインを担当されました。いずれの講義も保育の現場において大変参考になるものであり、参加者から「職場に帰ったらすぐに実践してみたい」という意見が聞かれました。

今後も、幼児教育、障害児保育、マネジメントの各分野の研修が予定されていますが、研修の円滑な実施に皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。



東部支部

支部長 白道保育園 土山雅之

一、総会及び施設長研修会

期日 平成三十年五月十五日(火)

会場 沼津市民文化センター 大会議室

内容 「今後の乳幼児教育の行方と課題」

〈新保育指針の施行を迎えて〉

講師 日保協理事・内閣府子ども子育て会議委員

認定こども園ひがしどおり園長

坂崎隆浩氏

二、中堅保育者研修会(キャリアアップ研修)

期日 平成三十年八月二十七日(月)

〈二十九日(水)〉

会場 三島市箱根の里少年自然の家

三、保育の日研修会

期日 平成三十年十月十三日(土)

会場 沼津市民文化センター

四、民間部会県外施設視察研修

期日 平成三十一年一月中旬

視察先 未定

五、行政部会研修

期日・会場 未定

六、青年部会研修

期日・会場 未定

七、新規採用予定職員研修会

期日 平成三十一年二月二十六日(火)

〈二十七日(水)〉

会場 三島市箱根の里少年自然の家

八、家庭における読み聞かせ活動の普及

中部支部

支部長 一番町保育園 海野美代子

一、総会及び施設長研修会

期日 平成三十年五月十八日(金)

場所 静岡県総合社会福祉会館

講師 絵本作家・鳥の巣研究家

鈴木まもる氏

演題 「絵本と鳥の巣の不思議」

二、職員研修会

期日 平成三十年六月二十七日(水)

場所 静岡科学館る・く・る

講師 る・く・る次長・エデュケーター

常葉大学名誉教授 山田辰美氏

三、中堅保育者研修会

期日 平成三十年九月五日(水)

場所 静岡音楽館AOI講堂

講師 ウメハナリレーシヨonz

代表 松原美里氏

演題 「中堅がしなやかに輝くリーダーシップ

プロコミュニケーション」

四、新規採用予定職員研修会

期日 平成三十一年二月十九日(火)

〈二十日(水)〉

場所 静岡県立焼津青少年の家

五、各地区・青年部会事業

各地区・青年部会の事業計画に基づいて実施

西部支部

支部長 ルンビニ保育園 岡田泰稔

一、総会及び施設長研修会

期日 平成三十年五月十四日(月)

場所 アクトコンGRESセンター

講師 (有)遊育 代表取締役 吉田正幸氏

二、保健衛生・安全対策研修会E 3.4

期日 平成三十年六月二十五日(月)

場所 アクトコンGRESセンター

講師 国立感染症研究所 感染症疫学センター

第三室長 多屋馨子氏

大阪母子医療センター 消化器・内分泌科

主任部長 恵谷ゆり氏

三、男性職員交流研修会・初任職員研修会

期日 平成三十年九月七日(金)

場所 アクト音楽工房ホール

講師 谷口國博(たにぞう)氏

四、保健衛生・安全対策研修会E 2.1

期日 平成三十年九月十三日(木)

場所 アクトコンGRESセンター

講師 浜松学院大学現代コミュニケーション学部

専任講師 兒島佳子氏

五、保健衛生・安全対策研修会E 5

期日 平成三十年十月二十三日(火)

場所 アクトコンGRESセンター

講師 NPO法人保育の安全研究・教育センター

代表 掛札逸美氏

六、新規採用予定職員研修会

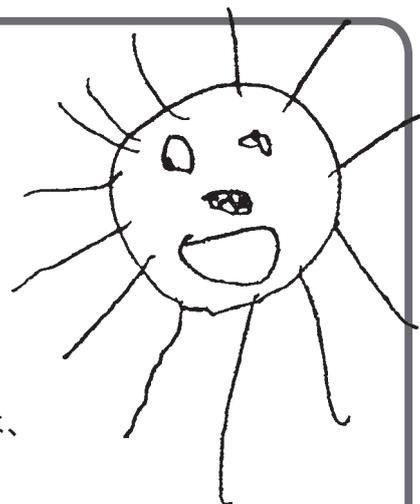
期日 平成三十一年二月十三日(水)

〈十五日(金)〉

場所 静岡県立三ヶ日青年の家

各支部だより

園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
〔園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)〕
「特別保育事業賠償責任保険」
など、園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する共済制度
(総合生活保険(こども総合補償))です。
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

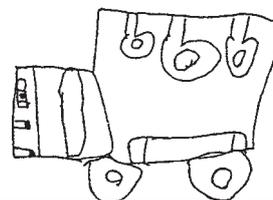
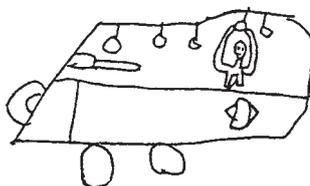
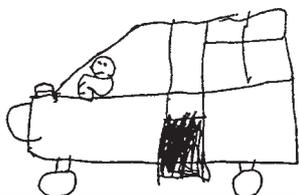
〈連絡先〉 (公社)全国私立保育園連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害
保険特約付帯傷害保険・総合生活保険(こども総合補償)の概要について
ご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。
詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする
保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険
会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要
事項説明書」をよくお読みください。



紙から創る、コミュニケーション

<http://dainichi-p.co.jp>



自社製造のメモ帳専門メーカーメモ工房。年間 500 万冊以上の実績。販促、ノベルティに最適なメモのことなら大日三協(株)のメモ工房へ！



大日三協株式会社

静岡県静岡市葵区流通センター12-1
TEL:054-263-2435(代)・FAX:054-263-2409

その他にも色々なメモ帳をご用意！

メモ工房 検索

さまざまな危険からお子さまをお守りする

『園児総合保障共済制度』

AIG損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか予想もつかない事故の、確かな“まもり”として本制度をお届けいたしております。

静岡営業支店 〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-1
富士火災静岡ビル5階
☎: 054-686-1150
浜松支店 〒430-7715 浜松市中区板屋町111-2
浜松アクタタワー15階
☎: 053-454-0321
沼津支店 〒410-0801 沼津市大手町2-10-14
三井生命沼津大手町第2ビル2階
☎: 055-963-8081



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 **シャクエツ**



登録者数
54,000名

保育求人ポータルサイト
保育情報 ひとつこむ
<http://hoikujoyouhou.com>

保育士
幼稚園教諭
英会話講師
調理師

採用・欠員で困った時は
保育の人材紹介・派遣
0120-777-277

asuka

さあ、ワクワク探しの旅に出かけよう！ www.tobutoptours.co.jp



東武
トップ
ツアーズ

静岡支店
〒420-0859
静岡県静岡市葵区栄町3番1号
あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10F
TEL.054-255-1919 FAX.054-252-9509

“Warm Heart”
～ありがとうの連鎖を～

こどもの笑顔がみたいから

安心・安全な
保育園用おやつ



全国の保育園から
お使い頂いています

 **株式会社サンワールド**

<静岡支店> 〒421-0121 静岡市駿河区広野2-10-17
TEL054-256-6332 <http://www.sunworld-honsha.co.jp>

社会福祉法人支援システム「創・ゆとり」シリーズ

保育所「ICT化推進補助金」対応！

保育所事務処理の“作業効率化・正確化”を応援します！

園-SiEN(支援)

園児の記録を統合管理します
出席簿・保育日誌・週案・月案等を、
現在ご利用中の書式でデータ管理
できます！

財務会計2018

「新会計基準」準拠！
シンプルに使いやすく、予算～仕訳
～決算まで安心の、財務会計シス
テムです

給与計算2018

「給与実務カレンダー」「職員一覧入
力画面」等、便利な機能を追加して
生まれ変わった、給与計算シス
テムです



ISO9001・ISO27001認証 ITインテグレーター

株式会社 **ユニテック**

〒420-0911 静岡県葵区瀬名1丁目18-33 ユニテックビル
TEL:054-264-1111 FAX:054-264-7771

ホームページ www.unitec.jp メールアドレス eigyo@unitec.jp



子ども・子育て支援制度対応・ICT補助金対象システム 「PAL ANGEL (パルエンジェル)」

ICカードで簡単操作の登降園管理、園務日誌、保育計画、報告書等、多様化する 保育園の
事務作業をサポートいたします。クラウドサービスで安心です！

園の紹介、情報公開は簡単便利な
ホームページで！
「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバム等が
園のパソコンで簡単に更新できます！

簡単操作のメール配信システム
低価格で多機能！
「チェックインシステム」

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答集計、閲
覧状況、受信状況も把握できます！



株式
会社

データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2
TEL:055-972-7717 FAX:055-976-1057

<http://www.dataeast.co.jp> E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp

編集後記

三島市 白道保育園 土山雅之
ほく静岡は県内の保育界の情報
が満載のステキな機関紙ですよー！

御殿場市 双葉保育園 勝又秀文
今年も中身の濃いほく静岡にな
っています。ぜひお楽しみに。

沼津市 いずみ保育園 十八公浄滋
今年の夏号も先生方と協力し合って編集できま
した。大切な情報がたくさんです。

静岡市 麻機保育園 鈴木克明
このほく静岡は編集委員の血と汗と涙の結晶
です。今回も頑張って作りました。

静岡市 有度十七夜山保育園 笠井友泰
研究会等、県内皆様の活動の賜物です。おつ
かれ様です。

静岡市 城北保育園 松田 剛
広報委員会も二年目になりました。昨年は全く
の素人でしたが、本年度は昨年の経験を生かして
頑張ります。

静岡市 竜南こども園 太田嶋俊彦
これからも魅力あるほく静岡となるよう頑張
っていきますのでよろしくお願ひします。

焼津市 なかよし保育園 北山 茂
燃える男・鉄人・獄門鬼：あきらめない熱い
男たちの魂よ永遠なれ。あついお盆に寄せて。

袋井市 袋井ハロー保育園 鈴木 康
今年の夏は暑くて倒れそうです。暑い夏に負け
ないよう、保育をがんばりましょう！

湖西市 微笑こども園 河田宗康
今年度も、素敵なおほく静岡となるよう、がんば
ります！

湖西市 真愛保育園 松浦弘太郎
大分慣れてきました。これからはがんばります。

わんぱくひろば



「ほいく静岡」原稿写真募集中

保育実践・研究の紹介や育児相談・講座の紹介など奮ってご寄稿下さい。

投稿先 静岡県保育連合会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番70号

TEL : 054-251-8873